

出向く営農レポート

～学校給食用野菜栽培に取り組んでいます～



北部営農センター 尾張旭地区担当
大津 和也

今回のレポートは、冬野菜の代表格キャベツ。1月～2月の出荷を目指して栽培に取り組んでいます。

生産者である立松純子さんは当JAの「女性のアグリスクール」卒業生で、卒業してからも夫婦で協力しながら、順調に出荷量を増やしています。

今回は今年から挑戦している学校給食用キャベツの圃場を訪問しました。

キャベツは初期育成で外葉を大きく育てる事が重要になってきます。今回、一部生育が遅れているキャベツに対しては、即効性肥料である硝酸石灰の追肥を提案しました。



害虫対策

初期防除としてプレバソンフロアブル5、アファーム乳剤で防除していた為、ほとんど被害されていませんでした。しかし圃場巡回中にヨトウムシが確認されたため、再度防除することを提案しました。キャベツはアオムシ、ヨトウムシやアブラムシ被害が多いので、おすすめ農薬であるグレーシア乳剤やウララDFを紹介しました。



キャベツおすすめ農薬	使用方法	散布液量	希釈倍率	使用時期	使用回数
グレーシア乳剤(チョウ目)	散布	10aあたり100～300リットル	2,000～3,000倍	7日前まで	2回以内
ウララDF(アブラムシ)	散布	10aあたり100～300リットル	2,000～3,000倍	収穫前日まで	3回以内

今後も訪問しながら、葉の色や成長をこまめにチェックし、防除や追肥のタイミングを逃さないように提案します。キャベツは給食だけでなく産直にも出荷予定です。冬のキャベツはサラダや炒め物、鍋などにすると甘みがよくわかりますので、ぜひご賞味ください。

産直友の会では、現在も学校給食向け生産者を募集中です。興味のある方は、お気軽に担当者までお声掛けください。